

第133回神戸大学経営協議会議事要録

日 時 令和8年6月26日（金） 13:30～16:03

場 所 神戸大学本部 大会議室 及び WEB（Teams 使用）

出席者 藤澤議長（学長）、
坂井委員、佐野委員、高梨委員、伯井委員、久元委員、八木谷委員、
山谷委員、木戸委員、玉置委員、河端委員、喜多委員、玉岡委員、
松尾委員、森山委員、柿原委員

（オブザーバー）濱田監事、山上監事、向井副学長、黒田副学長、大川副学長、
福本副学長、宮脇副学長、長坂副学長、近江戸副学長、
白鳥人文学研究科長、金京経済学研究科長、臼井システム学
研究科長、勝二医学系研究科長

欠席者 角元委員、齋藤委員、西本委員、宮田委員、荒木委員

議事要録について

第132回経営協議会の議事要録について、特段の意見はなく、役員会
として確認の上、神戸大学のホームページに公表する旨説明があった。

審議事項 [委員からの主な意見等（○：意見・質問）]

1 令和7事業年度決算について

令和7事業年度財務諸表等について、決算概況書及び附属病院決算に基づき
説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

また、併せて、財務諸表に添付する事業報告書及び決算報告書について説明
があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

○ 他大学と比較しても優れた経営状況である。特に、ここ数年、外部資
金の獲得額が大幅に増加している。また、附属病院はトップに近い経営
であると思われる。

○ 人件費増、物価高、病院の働き方改革の推進等の課題もあるかと思う
が、引き続き、部局ごとの経費の見える化等を一層進め、今の路線で努
力いただきたい。

○ ベンチマークやKPI等で他大学より優れている点は何か。また、決算
概況について、外部機関から評価されるような仕組みはあるのか。

→ 運営費交付金における「成果を中心とする実績状況に基づく配分」に
活用する共通指標の中で他大学と争っており、グループ⑤の中で、比較
表を作成している。特に常勤教員あたりの獲得研究費は優れている。

- 研究論文数や Top10%論文等も指標となる。今後も順位を把握し、弱点を洗い出しながら対策を立てていく。
- 文部科学省による法人評価の評価指標としては、当期純利益と成果に基づく実績配分がある。

2 令和9年度概算要求について

令和9年度概算要求に係る組織の再編成等、教育研究組織改革分、共通政策課題分及びミッション実現戦略分について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

3 国立大学法人評価4年目終了時評価に係る資料（達成状況報告書、業務実績報告書）について

第4期中期目標期間の4年目終了時評価に係る達成状況報告書、業務実績報告書について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

4 国立大学法人神戸大学学則の一部改正について

令和8年7月1日付けで医学部附属病院国際がん医療・研究センターの医学部附属病院の分院としての位置付けを変更し、医療法上の位置付けと同様に医学部附属国際がん医療・研究センターとすることに伴い、国立大学法人神戸大学学則を一部改正することについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

報告事項

1 神戸大学学術・社会共創株式基金の設置について

神戸大学現物資産寄附活用基金のもとに、学術研究の振興及び社会共創の推進に資することを目的に、神戸大学学術・社会共創株式基金を設置したことについて報告があった。

2 令和7年度監事監査結果報告について

令和7年度に実施した監事監査の結果について報告があった。

3 2025（令和7）年度下半期神戸大学資金運用実績報告

2025（令和7）年度下半期の資金運用実績について報告があった。

4 大学院教育改革プランについて

大学院教育改革の方向性及び今後の取組について報告があった。

- 博士課程を修了した優れた人材が社会で活躍するためには、アカデミアと産業界との頭脳循環のようなプロセスが必要であり、大学院教育改革プランは時宜を得た内容と方向性である。一方で、18歳人口の減少は避けられないため、資源の重点配分にも配慮いただきたい。

○ 企業と大学の新しい関係づくりのため、博士課程は重要であり、必要とされる人材を輩出するために構造を変えていくという考えは正しいと思う。是非推進していただきたい。

○ 神戸大学内での修士博士課程への進学者が少ないため、このような改革路線は非常に意義がある。特に地域貢献や大学発スタートアップは拡大の余地があり、産官学連携を更に進めていただきたい。

5 令和8年度大学教育再生戦略推進費「未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点創出事業」公募への申請について

日本学術振興会が公募する令和8年度大学教育再生戦略推進費「未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点創出事業」へ申請を行ったことについて報告があった。

○ 神戸大学が研究大学として発展するため、予算確保は必要であり、本申請を是非通していただきたい。

→ 本申請が採択されなかった場合も、予算を確保し、大学院改革を進めることは学内に周知している。次の報告事項6, 7, 8も大学院改革に係る補助金であり、産学連携の人材を育成するものである。

6 令和8年度「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）【重点分野支援枠】」への申請について

大学改革支援・学位授与機構が公募する令和8年度「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）【重点分野支援枠】」へ申請を行ったことについて報告があった。

7 JST産業・科学革新人材事業（INSIGHT）の申請について

科学技術振興機構が公募する「産業・科学革新人材事業（INSIGHT）」へ申請を行ったことについて報告があった。

8 「科学とビジネスの近接化時代の大規模産学連携拠点形成事業」の申請について

新エネルギー・産業技術総合開発機構が公募する「科学とビジネスの近接化時代の大規模産学連携拠点形成事業」へ申請を行ったことについて報告があった。

9 文部科学省・JST「先端研究基盤刷新事業（EPOCH）」への応募について

科学技術振興機構が公募する「先端研究基盤刷新事業（EPOCH）」へ申請を行ったことについて報告があった。

10 橋渡し研究支援機関認定申請について

文部科学省が公募する「橋渡し研究支援機関認定制度」へ申請を行ったことについて報告があった。

1 1 令和8年度国立大学法人運営費交付金（経営改革促進分）の申請について
令和8年度国立大学法人運営費交付金（経営改革促進分）へ申請を行ったことについて報告があった。

1 2 令和7年度補正予算「産学連携リ・スキリング・エコシステム構築事業」について
令和7年度補正予算「産学連携リ・スキリング・エコシステム構築事業」が採択されたことについて報告があった。

◎ 次回は、令和8年9月18日に開催予定。